ストレス情報伝達分子：ステリルグルコシド

キーワード：　ストレス応答反応　ストレス性胃潰瘍

人間文化創成科学研究科 自然・応用科学系 ライフサイエンス専攻　室伏きみ子
E-mail: murofushi.kimiko@ocha.ac.jp　TEL/FAX:5978-5362

ストレス応答の初期過程において、ステリルグルコシド(SG)が合成誘導され、それがストレスタンパク質HSPの合成へと情報を伝達する分子であることを見出しました。またこれが、生物に普遍的な反応であることや、SGがストレス性胃潰瘍をはじめとするストレス性疾患の予防と治療に役立つ可能性も明らかにして、SGの医療への応用も視野に入れた研究を続けています。最近、動物細胞から新たなSG合成酵素を見出して、その精製と反応機序の解析、さらには生体膜における局在や活性化機構について検討を続けています。



